

世界自然遺産知床羅臼とのかかわりから学ぶ

羅臼町立春松小学校
校長 小川 一
担当者 藤吉 桂子

1 活動の趣旨

本校は、知床半島に立地し、『郷土の発展に役立つ実践力のある社会人となるために、勤労を尊び、仲良く助け合い、豊かな情操と高い知性をもち、何事もやり抜く心身ともに健康な子供を育てる』ことを学校教育目標として、ESDを「豊かな関わりを通して学習する理念と方法」と捉え、ESDの実践を通して「自立の力と共生の心」の育成に取り組んでいる。

特に、総合的な学習の時間を中心として、世界自然遺産知床羅臼の豊かな自然や産業など、郷土の特性を学ぶ「知床学」と教科横断的な指導計画に基づき教育活動を行っている。

2 活動計画

学年	単元名	領域	学習内容	外部との連携	フィールドワーク
1	なつをさがしにいこう (生)	環境	・川原や海辺で動植物に興味をもつ学習 ・川原や海辺での遊びを通して季節の専科を知る学習	○郷土資料館	郷土資料館周辺の川原(陸志別川)や海辺
2	めざせいきものはかせ (生)	環境	・地域の生き物や自然に興味をもつ学習 ・生き物の命の大切さを知る学習	○郷土資料館	郷土資料館周辺の川原(陸志別川)や海辺
3	生き物のとくちょうをくらべよう(国) 昆虫を調べよう(理) ふるさと探検隊(総) 働く人とわたしたちのくらし(社)	郷土 環境	・身近な草花や樹木を知る学習 ・身近な昆虫を知る学習 ・在来種と外来種を知る学習 ・ハチ学習、クマ学習 ・町の基幹産業「漁業」を調べる学習 ・まとめ・校内発表会 ・町内ユネスコスクール発表会	○知床財団 ○羅臼漁協 ○水産加工事業者	・学校周辺 ・水産関連企業 ・漁業協同組合
4	ふるさと探検隊Ⅱ(総) 水はどこから(社) 安全なくらし(社)	郷土 環境 共生	・テーマ学習(産業、観光、自然・歴史) ・水の安定供給についての学習 ・安全なくらしを守るしくみ ・まとめ・校内発表会 ・町内ユネスコスクール発表会	○知床財団 ○ビジターセンター ○漁業者 ○水道関連事業社 ○海上保安庁 ○町内ユネスコスクール	・道の駅 ・ビジターセンター ・町内浄水場
5	水産業のさかんな地域(社) 命のたび(道) 北方領土を調べよう(総) アイヌ文化を調べよう(総) ふるさと探検隊(総)	文化 国際 産業	・水産資源や自然環境について ・サケ学習 ・北方領土と歴史的背景について学習 ・多様な文化価値観の理解 ・クマ学習、郷土芸能「いぶき樽」 ・まとめ・校内発表会	○羅臼漁協青年部 ○羅臼町役場 ○知床自然ネイチャーセンター ○知床財団 ○いぶき樽保存会	・北方領土資料館(根室市)
6	アイヌ文化を調べよう(総) 領土問題を調べよう(総) 私たちのくらしと災害(理)	文化 人権 国際 防災	・アイヌ民族の歴史や文化への理解 ・多様な文化価値観の理解 ・北方領土と歴史的背景について学習 ・地震、津波による災害に関する学習 ・まとめ・校内発表会	○羅臼町教育委員会 ○北海道教育大学釧路校	・アイヌコタン(阿寒湖温泉)

3 活動事例

(1) 自然の素晴らしさや生命の大切さを学ぶ

生活科【1・2年】

1. 2年生は、羅臼町郷土資料館周辺の前庭や裏山、前浜を活動場所として、実際に川に入って生き物を探したり、虫を捕まえたりするなどの活動を通して、自然の素晴らしさや生命の大切さを学ぶ活動を行っている。



野原での虫探し



川原での生き物さがし

(2) 羅臼の魅力を確認する

総合的な学習の時間【3・4年】

3年生は、羅臼町の基幹産業である「漁業の仕事」について調べる社会科の学習と関連付けながら実際に働いている人にインタビューするなど情報収集の方法について学ぶ活動を行っている。



市場見学の様子



漁師の方の協力による昆布学習

4年生は、羅臼の魅力について話し合ったり、地域や観光客からアンケートを取り、それを整理分析する学習をとおして地域の魅力をユネスコスクール発表会で発信している。



漁協青年部の協力によるサケ学習



観光客にインタビューする様子

(3) 伝統や文化に関する学び

総合的な学習の時間、社会【5・6年】

5. 6年生は、北方領土の歴史や返還への取組についての学習、アイヌ文化並びに町内の伝統文化に関する学習について、元島民や地域の方々から直接お話を伺ったり、体験的な活動を通して関心を高め多様な他者と協働する大切さを学んでいる。



アイヌコタンでの木彫り体験



郷土芸能「いびき樽」の演奏

4 成果と課題

成果としては、年間指導計画に基づき知床財団、漁業関係者、地域住民等の協力を得て、実社会や実生活とのつながりのある具体的な活動や体験を行うことができた。また、学習活動の過程や成果などの記録、ワークシートや制作物などの記録は資料として学年別にフォルダに保管し、職員間の引継ぎや共有化を図ることができた。課題としては、外部の教育資源を活用し、より一層充実した教育活動を展開していくためには、コミュニティ・スクールの枠組みの積極的活用や外部連携を効率的・継続的に行うための校内体制の整備が必要である。